

なにがきこえる？

教科・場面

音楽

授業・実践のねらい

音楽が流れたとき以外の、日常の中で聴こえる音や自分たちが出す音に意識を向けて身の回りにある音に気付く。様々な楽器の音の違いを意識して聴く。

対象の児童・生徒

高等部B班生徒 1～3年（7名）

会話できる生徒、発声や表情でコミュニケーションを取る生徒が在籍している。どの生徒も音楽の授業の中で得意な部分「歌のかけ声を元気にできる」「歌をすぐに覚えて一緒に歌える」「このダンスは任せて」「楽器が大好き」があり、楽しんで授業を受けることができている。どの生徒も初めて聴く音楽に耳を澄ませて集中して聴くことができる。

教材・教具

- ・ピアノ ・自然の音 ・楽器
- ・楽譜（下に張り付け） ・歌詞カード

工夫したところ

- ・静かに耳を澄ませて欲しい部分では、教師も小さな声にして身振りを交えて伝える。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

- ①音楽以外に外から聞こえる音、体の中から聞こえる音など、様々な音を紹介する。
- ②歌を歌い、曲の中で時間をとってみんなで耳を澄ませる。〇〇〇〇の部分で教師と一緒に歌にのせて発表する。
- ③歌に慣れてきたら、曲の途中で楽器の音を鳴らして聞かせる。楽器を数種類用意して提示し、生徒が自分で選んで発表できるようにする。

ここで時間を少しとって、自然の音や楽器の音に耳を澄ませる。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

窓の外から鳥の鳴き声や人の話し声などの音が聞こえてくると、ハッと顔を上げて気付く様子が見られた。また、静かにする場面では「自分の声も聞いて」というように発声や拍手で音を出して楽しむ生徒もいた。音と楽器のマッチングではどの生徒も集中して聞き、自分なりによく考えて答えることができた。